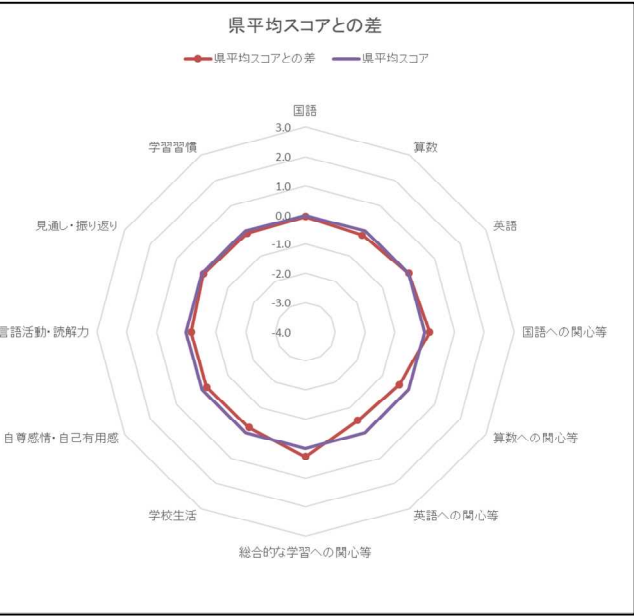


令和元年度 島根県学力調査結果及び分析・対策(松江市立雑賀小学校)

(1) 学力調査結果から見られた傾向

		成果と課題(○:成果、●:課題)	対策
5年	国語	○「話す・聞く」「書く」領域は、県平均より高い。 ●「読む」領域、ローマ字を書く問題に課題が見られる。	・読書に親しめるとともに、新聞等も活用して長文読解を計画的に取り入れ、文章の構成をつかみ、要約する活動を繰り返し行う。 ・ローマ字は、キーボード入力等、使うことを通して学ばせる。
	算数	○小数×小数、異分母分数のたし算の計算はよくできる。 ●「数量関係」「図形」領域、÷小数のしくみや商とあまりの問題に課題が見られる。	・具体物を操作して実感的に捉えられるようにするとともに、求め方を図に表しながら説明し合う活動を行う。 ・計算では、答えを予想して解くことや生活場面に置き換えて考えることを大切に、わり算では確かめの式に当てはめて考えるように指導する。 ・児童が取り組みたくなるような課題設定を工夫する。
6年	国語	○平均正答率は、県平均より2ポイント程度高く、「伝統的な言語文化と国語の特質」「話す・聞く」領域は高い。 ●読み取った内容を簡潔にまとめる問題に課題が見られる。	・文章構成や資料との関係などを図やキーワードでまとめ、自分の言葉で説明したり考えを話し合ったりする活動を多くする。 ・文字数を決めて文章をまとめる活動を繰り返し行う。
	算数	○平均正答率は、県平均より9ポイント程度高く、「数と計算」「数量関係」「図形」領域は高い。 ●速さの意味を問う問題に課題が見られる。	・問題文を、生活場面に置き換えたり図で表したりしてイメージ化させて取り組ませるようにする。 ・数量の関係をいろいろな図で表したり、図から関係を読み取ったりする活動を重視して指導する。

(2) 各学年・各教科の調査結果チャート



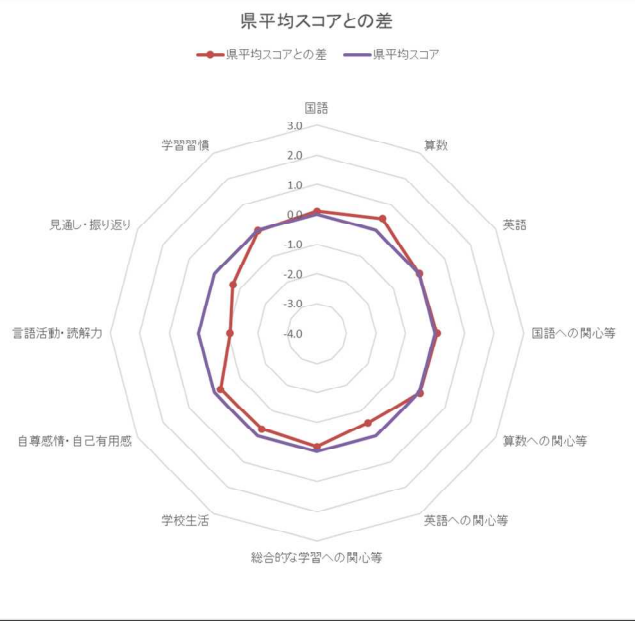
(参考) 平均正答率

		国語	算数
5年生	本校	59	54
	松江市	61	60
	島根県	60	58

受検者数
5年生 43 人

各スコアの範囲は-4から+3までで、島根県のスコアは基準値の0となっています。
スコアが0より大きければ大きいほど、島根県よりも「当該教科で平均正答率が高かった」、あるいは「当該カテゴリで肯定的回答が多かった」という結果になります。

6年



(参考) 平均正答率

		国語	算数
6年生	本校	53	68
	松江市	52	60
	島根県	51	59

受検者数
6年生 42 人

(3) 生活・学習に関する意識調査から見られた傾向

		成果と課題(○:成果、●:課題)	対策
5年	授業改善に関わる事項	○授業では、自分たちで課題を立てて話し合いながら学習活動に取り組んでいる割合、簡単に解決できない問題にチャレンジする活動を行っている割合は、県平均より高い。 ●学習をふり返る活動を行っている割合、図書館の本などを使って学習する授業が好きな割合は、県平均より低い。	・学習のめあてを意識して授業に臨むようにさせ、学習したことをまとめ、ふり返る場面を着実に設定する。 ・図書館使用の学年の時間を効果的に使い、図書館を活用した授業を計画的に実施することで、考えを広げたり深めたりできるようにする。
	家庭学習に関わる事項	○家で自分で計画を立てて勉強している割合は70%で、県平均より高い。 ●平日、家で1時間以上勉強している割合は51%で、県平均より低い。	・家庭学習や自主学習の仕方について指導し、課題の内容も見直ししながら、児童が関心・意欲をもって取り組んでいくようにする。 ・メディアとの接し方・活用の仕方について児童へ指導し、家庭との連携を図る。
6年	授業改善に関わる事項	○授業では、もっと簡単に解く方法がないか考える割合、授業で学んだことをほかの学習に生かしている割合は、県平均より高い。 ●ノートに学習の目標とまとめを書いている割合、友達と話し合う活動をよく行っている割合は、県平均より低い。	・ノート指導を継続して行い、学習のめあてとまとめも確実に書き、それを意識して授業に臨むようにさせる。 ・自分の考えを持たせた上で、話し合いの目的を明確にしてペアやグループでの話し合いをする活動を増やしていく。
	家庭学習に関わる事項	○家で予習をしている割合は50 %で、県平均よりかなり高い。 ●家で宿題をしている割合は86%で、県平均より低い。	・効果的な家庭学習の仕方を指導し、個々に事前指導も行っていく。 ・メディアとの接し方・活用の仕方について児童へ指導し、家庭との連携を図る。

(4) 生活・学習に関する意識調査の結果

